

一般講演 Ⅲ

座長：井手 久満（獨協医科大学埼玉医療センター）

Ⅰ 漢方製剤によって排尿症状が改善した3例

順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科¹⁾

順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学²⁾

靄 崇光¹⁾²⁾、水島 和彦¹⁾、黒澤 誠¹⁾
呉 彰眞¹⁾、上阪 裕香¹⁾、野崎 大司¹⁾
白井 雅人¹⁾、辻村 晃¹⁾、堀江 重郎²⁾

下部尿路症状(LUTS)は、泌尿器科医が外来診療で頻繁に遭遇する症状の一つであるが、その内容は頻尿、失禁、排尿困難感、尿勢低下、蓄尿時痛、排尿時痛などと多岐にわたる。原因も様々であるため薬物治療だけでは改善し得ず、治療に難渋することもしばしば認められる。しかしながら、排尿症状は患者のQOL低下に大きく影響を与える因子となり得るため、可能な限りその症状を軽減することが重要なのは言うまでもない。漢方製剤はガイドラインでも男性のLUTSや女性の過活動膀胱に対して推奨グレードC1の有用性が示されており、他剤でも効果が乏しかった場合の薬剤選択肢の一つとして知識を得ておく必要がある。今回我々は漢方製剤によって排尿症状が改善した3症例を経験したので若干の文献を加えて報告する。

1例目は76歳女性。膀胱癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除術後にBCG膀胱内注入療法(80mg×6回)を施行した。以前から頻尿、夜間頻尿を自覚していたが、BCG膀胱内注入療法後はさらに頻尿、排尿時痛といった膀胱炎症状が出現し、一時的に膿尿も認められた。抗生剤の投与により膀胱炎症状、膿尿は改善したが、頻尿、夜間頻尿は残存した。ミラベグロン開始するも症状の改善乏しかったため、牛車腎気丸に変更したところ著明に頻尿の改善が認められた。OABスコア、IPSSの改善、また夜間頻尿が5回から1回に著明に改善した。現在も投与を継続されているが、長期間の改善が続いている。牛車腎気丸の蓄尿症状への効果はこれまでに多数報告されており、ラットによる実験では膀胱収縮力の低下は生じず、C神経線維の活動を抑制することで、膀胱収縮頻度のみを抑制することが報告されている。

2例目は82歳女性。数年来の蓄尿時痛、頻尿に悩まされており近医でビベグロンが処方されていた。効果は乏しいものの内服継続されおてり、転居を機に当院受診された。尿検査や残尿は問題なかったが、膀胱鏡検査にて間質性膀胱炎の所見を認めた。猪苓湯を開始したところ蓄尿時痛が著明に改善した。現在、猪苓湯のみで症状再燃なく経過されている。猪苓湯の間質性膀胱炎への効果についても、これまでに報告が多い。猪苓湯には尿量減少を改善させる猪苓、茯苓、沢瀉や消炎作用を有する滑石、止血作用を有する阿膠が含まれており、これらが間質性膀胱炎症状を緩和すると考えられている。

3例目は68歳女性。繰り返す膀胱炎のため当院に通院されていた。外出ごとに疲労感が増悪し、膀胱炎症状を繰り返していた。抗生剤等で症状が改善した時点で、補中益気湯を開始したところ、日中の疲労感が軽減され、膀胱炎症状も出現しなくなった。現在では、外出することも苦ではなくなりQOLの向上に寄与できた。補中益気湯は消化器症状を改善させることから体力の回復が期待でき、一般に虚証に適応がある。体力の低下した再発性膀胱炎患者には有用と思われた。